



地域再エネ事業の例 ①

再生可能エネルギーは地域のもの

「市民が出資するおひさまファンドで進める エネルギーの地産地消」

2013.6.23

おひさま進歩エネルギー(OSE)

原 亮弘

初めの一步



さんぽちゃん

NPO法人

南信州おひさま進歩

2004年2月

「環境文化都市」を目指す飯田市を中心にした地域南信州、
エネルギーの地産地消で循環型社会構築のため、
市民ができること、市民でないとできないことがあるはずと
NPOを設立！

寄付型の第一号おひさま発電所 「さんぽちゃん1号」



2004年5月 飯田市内の私立「明星保育園」に寄付型でNPOが設置

2004年12月おひさま進歩エネルギー(有)設立

パートナーシップ型環境公益事業

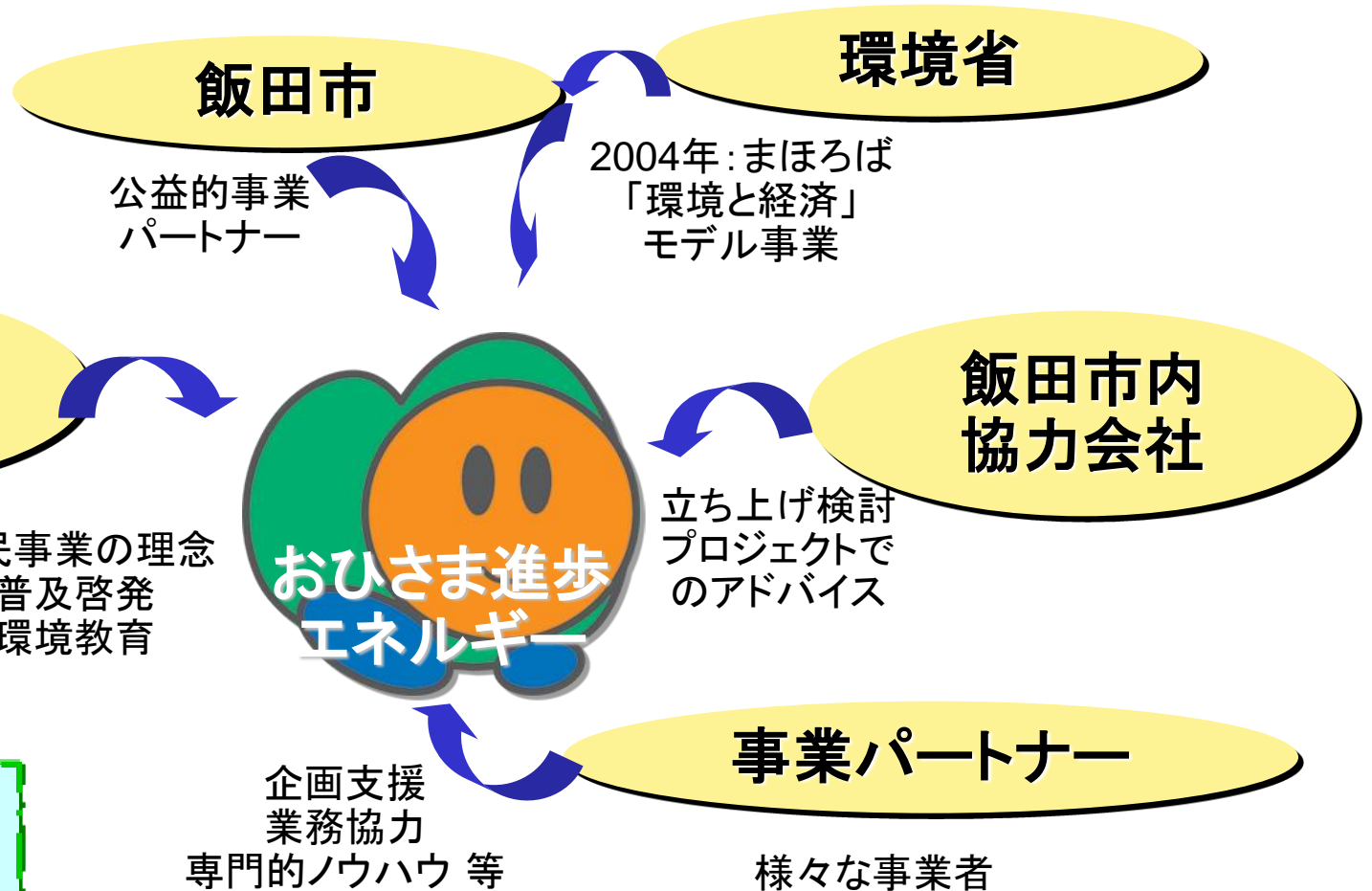
NPOの市民事業の理念を核に、様々な主体の力を集めて立ち上がった。

設立時	
資本金	300万円
スタッフ	1名(常勤役員)
委託先スタッフ	2~3名

**NPO南信州
おひさま進歩**

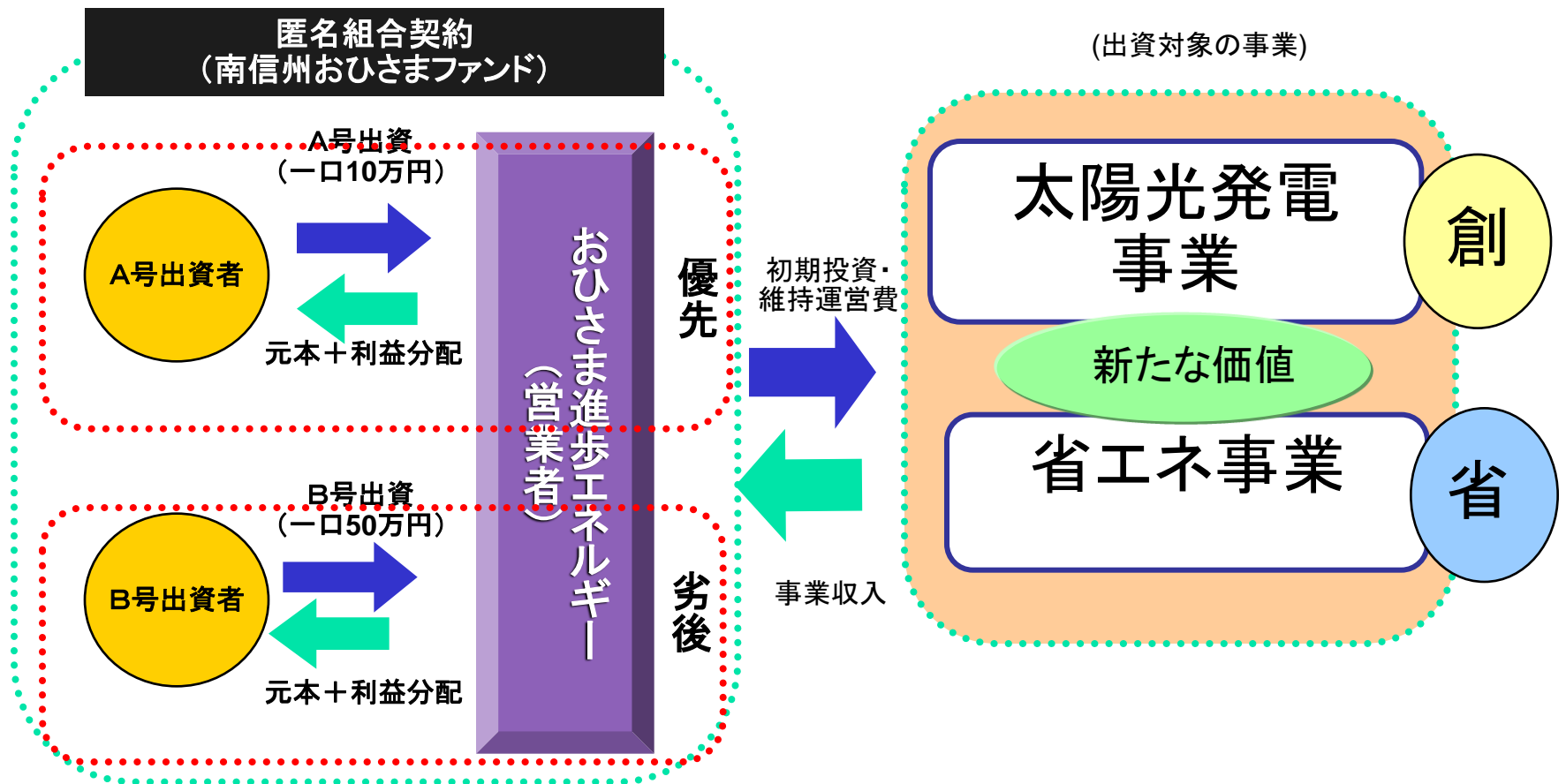
市民事業の理念
普及啓発
環境教育

2013.5月末現在		
資本金	1千万円	
スタッフ	男性	5名
	女性	3名



日本初の「南信州おひさまファンド」の仕組み

市民風車ファンドの仕組みをもとに、1つのファンドから「太陽光発電」と「省エネ事業」の2つの事業に対する投資をする仕組み。出資者への利益分配も2%以上を計画。



出資者の気持ちとお金によって、エネルギーの地産地消を形にします。

日本初の「南信州おひさまファンド」 おひさま発電所の仕組み

環境省(飯田市経由)補助金 システム設置費の2/3

グリーン電力販売

グリーン電力販売収入

太陽光発電システム 5~10kW/箇所
新設37カ所と既設1カ所・合計約208kw

おひさま進歩エネルギー
が設置します

電力の供給

市民・法人・みなさま

(出資者)

市民出資
1口
10万円



利益分配金



市民出資
1口
50万円



(事業主体)

おひさま進歩
エネルギー

パートナーシップ
○公共的施設の屋根を
提供
○発電した電気の相当
額を授受する等の契約
締結

保育園・公民館・
児童センターなど

太陽光発電によって発
生した電力の料金を
おひさま進歩エネルギ
ーに支払います。

余剰電力は売電します

中部電力

売電の支払を受け
取ります

出資金は、環境公益事業の運営や、
太陽光発電システム設置とESCO事
業に充てていきます。

飯田市

保育園・公民館などの公的施設37箇所に設置 205KW

鼎みつば保育園に設置された太陽光発電設備



千代保育園に設置された
太陽光発電設備



松尾児童クラブに設置された
太陽光発電設備

〈おひさまファンドの太陽光発電事業のポイント〉

飯田市との売買電契約内容の特徴

前例にとられない行政の決断

☆ 20年の長期契約であること。

(行政財産の目的外使用についても20年の契約)

☆ 22円/kwhの買取契約であること。

(ただし大きく変動する場合は調整)

☆ 20年の契約期間の間には、建て替え、移転等が考えられるが、基本的には「事業の趣旨」をくみとり、契約が継続できるように「配慮する」という規定などを盛り込む…

新しい公共の一例

出資者からのメッセージ抜粋(お金の見える化、お金に意志を)

・とても**画期的なファンド**だと思います。ぜひ成功させましょう！
(男性28歳、NGOスタッフ)

・**できることはしたい**と思っています。今回もその思いで出資しました。
(女性40代)

・地球環境を守るため、**クリーンなエネルギー**をどんどん広げて頂きたいと思います。
(男性47歳、内科医師)

・**ちょっとでも**地球温暖化防止の役に立つことができたらうれしいです。
(女性8歳)

・**自分にも参加できる**地球温暖化防止対策だと思い、おひさまファンドを応援します。
(男性39歳、会社員)

・**未来の地球**が安心して住める場所となりますように
(女性35歳、会社員)

・出資をすることが温暖化防止や、よりよい**未来を作る**ことにつながればと思います。
(女性27歳、会社員)

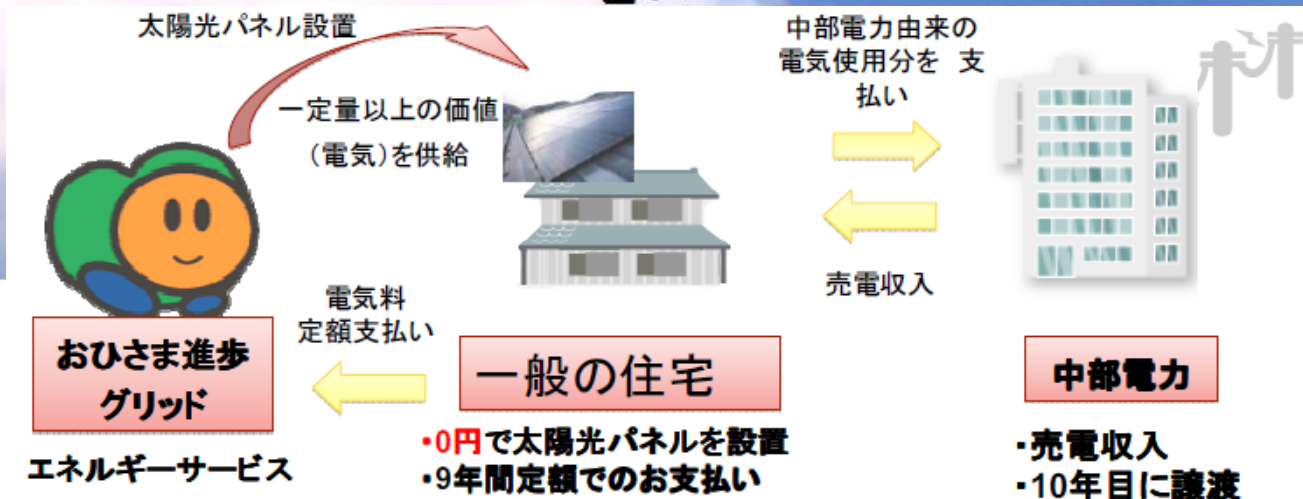
・温暖化防止のために**時間と心を使える**ような人間になりたいと思っています。
(女性)

地域が協働で取り組む新たな仕組み (162ヵ所 1300kWの経験を活かして)



おひさまともりが育む低炭素で活力あふれる
環境モデル都市 飯田

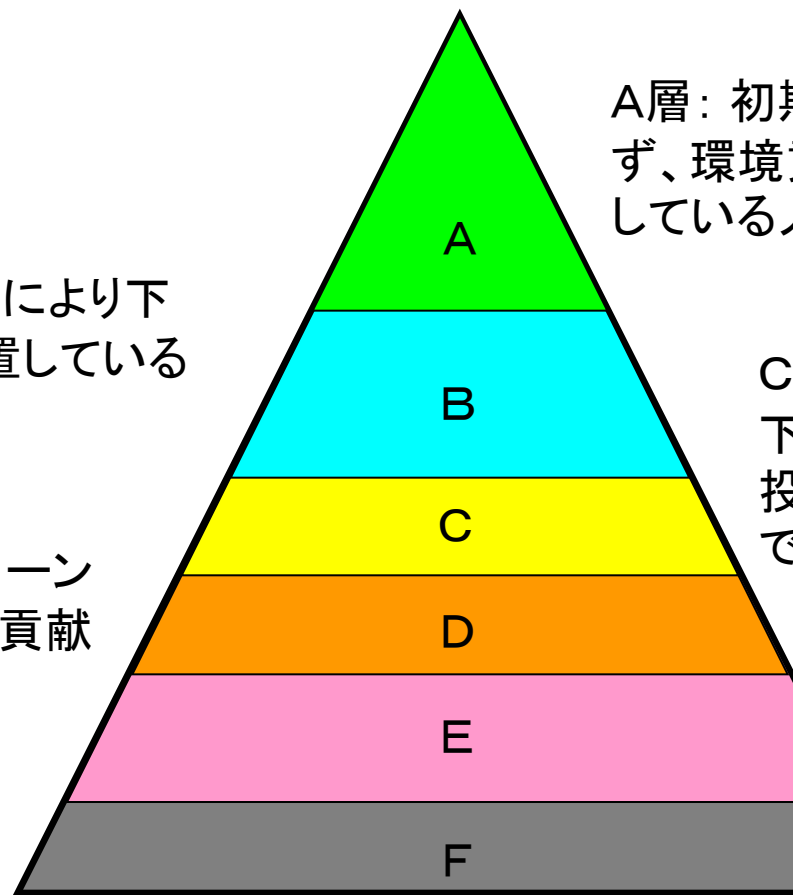
飯田のすべての屋根に太陽光発電を!! おひさま 円システム ゼロ



固定価格買取制度の
開始に合わせスタート

普及拡大を図るイメージ

現在普及が広がらない、図のEの位置を意識した制度



A層：初期費用に関わらず、環境貢献により設置している人々

B層：初期費用が補助金により下がり、環境貢献により設置している人々

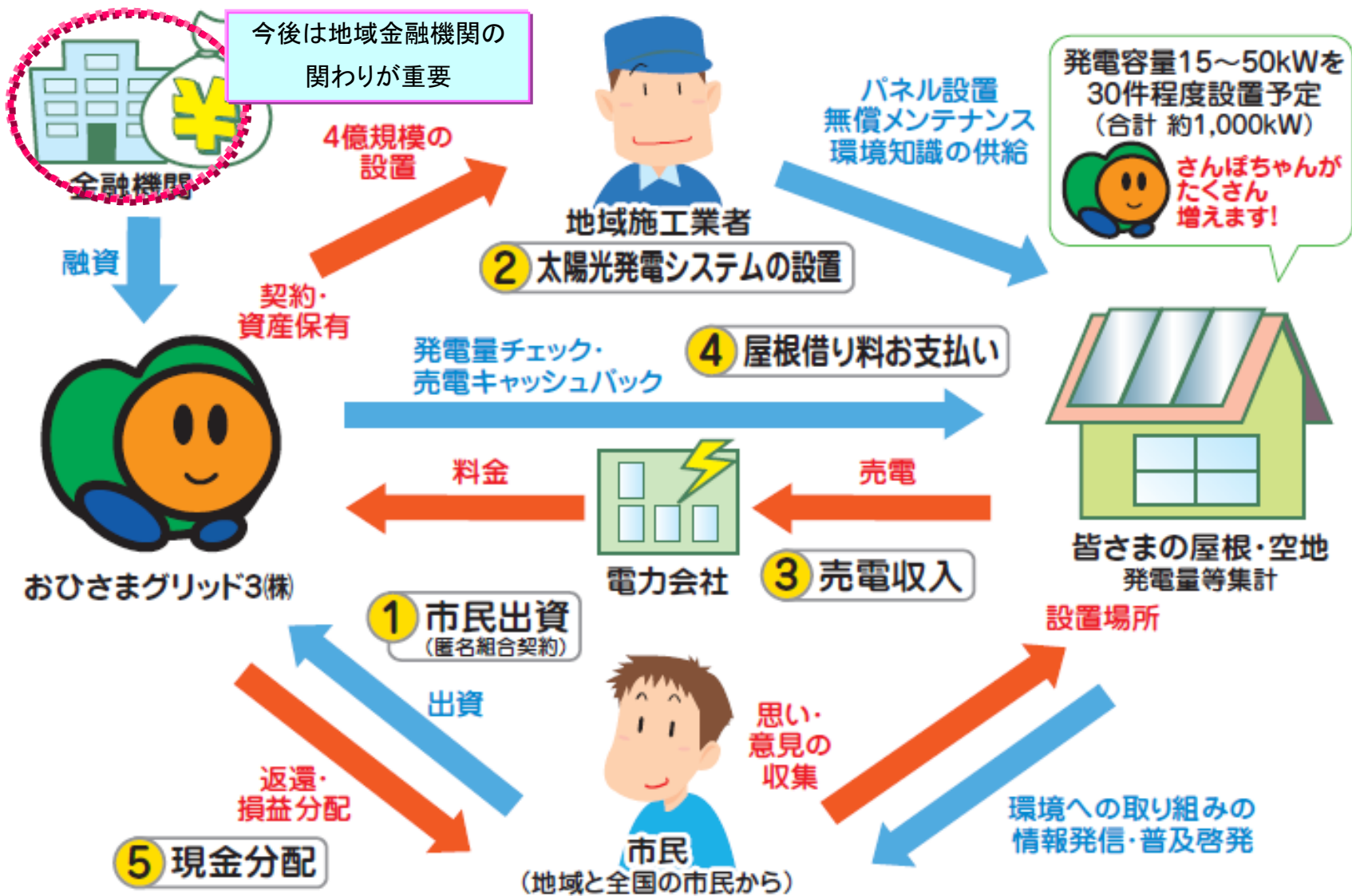
C層：初期費用が補助金により下がり、固定価格買取も併せ投資回収も意識して設置するであろう人々

D層：C層の初期費用をローンなどで負担を減らし、環境貢献により設置している人々

E層：環境貢献として設置したいが、預貯金を取り崩したり、ローンを組んでまで設置に踏み切れない思っている人々

F層：初期投資に関わらず設置の意思がない人々

メガさんぽおひさま発電所プロジェクト ~みんなで1メガワットの分散型メガソーラー!~



メガさんぽおひさま発電所プロジェクト

みんなで1メガワットの分散型ソーラー

設置施設名	設置容量 (KW)	予想発電量 (kwh/年)
アップルキャブ(飯田市)	43.00	44,857
あふち保育園(阿智村)	27.55	30,921
あゆみ園(飯田市)	38.70	41,817
飯田自動車学校(飯田市)	11.61	13,005
売木浄化センター(売木村)	17.29	17,935
売木村ふるさと館(売木村)	34.96	38,071
オムロン飯田第二工場(飯田市)	502.24	502,240
健康センターあさぎり(高森町)	27.09	29,310
高森中学校(高森町)	44.08	49,872
たまゆらの丘(飯田市)	36.48	37,738
豊丘村スポーツ館(豊丘村)	46.44	46,929
南原苑(飯田市)	37.62	42,899
飯伊森林組合製材工場(喬木村)	41.28	41,418
明星学園第二東館(飯田市)	23.94	26,619
合 計	947.48	981,115

〈設置例〉 高森中学校 44kW

オムロン飯E



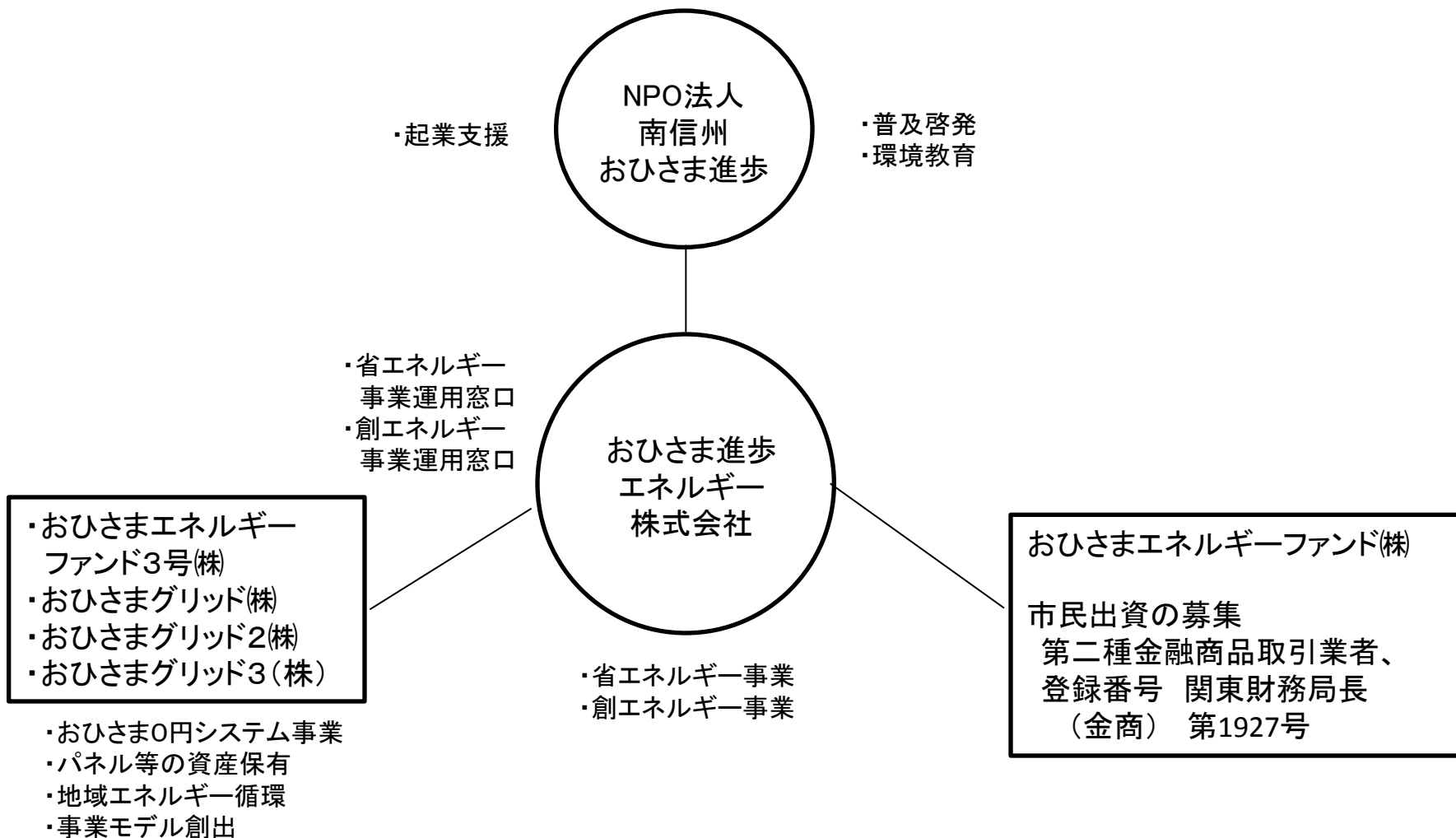
ファンド度募集の実績

ファンド名 (保有会社)	募集金額	募集期間(実質)	応募額
南信州おひさまファンド (おひさま進歩エネルギー)	2億150万円	05年2月～5月	2億150万円
温暖化防止おひさまファンド (おひさまエネルギーファンド)	4億6,200万円	07年11月～08年12月	4億3,430万円
おひさまファンド2009 (おひさまエネルギーファンド3号)	7,520万円	09年6月～9月	7,520万円
信州・結いの国おひさまファンド (おひさまグリッド)	1億円	10年10月～11年1月	4,790万円
信州・結いの国おひさまファンドⅡ (おひさまグリッド2)	8,100万円	11年10月～12月	8,100万円
地域MEGAおひさまファンド (おひさまグリッド3)	4億円	12年8月～13年2月	3億3,590万円
合計	13億2千万円		11億8千万円

ファンド度事業の成果(2012年度まで)

事業内容	実施年度	導入数	規模など	CO2削減予想 (トン/年)
太陽光発電事業	04年度～12年度	294カ所	2,880kW	1,600
	公共施設、民間事業所、個人住宅などに設置			
省エネ事業	05年度～08年度	21カ所		740
	公共施設、温泉施設、福祉施設民間事業所などへ 空調・証明などを中心に施工			
グリーン熱事業	06年度～08年度	13カ所		261
	温泉施設、民間事業所などに、太陽熱温水器や ペレットストーブ、チップボイラーなどを導入			
合計		328ヶ所		2601

おひさま関連会社の関係と取組み



※市民出資事業を行うため、ファンドごとに
資産保有会社を設立しています。

出資者ツアーの開催の様子(事業の見える化)

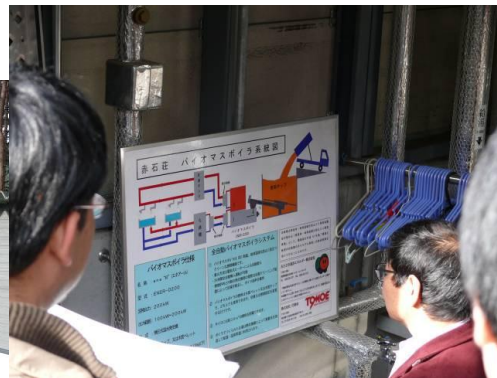


おひさま発電所見学(飯田市公民館屋上)

二〇一〇年三月



地域の文化に触れる(飯田お練りまつり)



2011年11月

大鹿村 赤石荘の見学(木質ペレットボイラー)



2012年11月

おひさま0円設置
者と交流

天竜峡を訪ねる



南信州中心に面的に広がる、分散型エネルギー事業

南信州は未利用エネルギーの宝庫

太陽エネルギーの光や熱など直接利用の他にも
豊富な森林資源・豊富な量と傾斜を持つ水資源など、



課題も多いが、
多様な再生可能エネルギーの利用

地域に貢献する再生可能エネルギー

ソーシャル事業・コミュニティ事業

- ・どこにでもある
- ・誰でも使える
- ・一部を除き無償

平和

●再生可能エネルギー

太陽光・熱、風力、水力
バイオマス、地熱
波力、潮力 など

日本は豊富

電気や熱の
エネルギー
製造設備

●その他エネルギー

石油、石炭、天然ガス
原子力、 など

日本に少ない

エネルギーの小規模分散
安定したエネルギー価格
持続可能な地域

地域内循環

人・物・お金の

入力

出力

- ・特定の場所しかない
- ・権利者(国)がいる
- ・有償、変動、枯渇

争奪

エネルギーの大規模集中
不安定なエネルギー価格
エネルギーの外部依存

少ない雇用

お金の地域外流失

再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例

背景

- ① 温室効果ガス削減のための自然エネルギー導入
- ② 再生可能エネルギー電気の全量固定価格買取制度(FIT)のスタート(H24. 7~)
- ③ 2,000時間を超える年間日照時間、豊富な水資源、森林面積85%
- ④ 自然エネルギー資源の活用と地域住民や行政等とのかかわりが不明確

全国初の
試み

再生可能エネルギー資源を地域住民共有の財産と捉え、
この資源を活用する権利はまず地域住民に存する

地域環境権の
付与

25年4月
制定

地域住民によるエネルギー事業者や企業と地域との公共的連携による
再生可能エネルギーによる発電事業を公民協働事業として支援する。

支援ツール

- 参入事業に対し、市民ファンドや銀行等融資などの市場資金が円滑に調達されるよう、附属機関が公的に信用補完機能を担い、審査情報も公表。事業に対するコンサルティングも行う。
- 発電事業立ち上げ期の調査費用にのみ充てられる資金を貸し出すために基金を造成し、無利子融資を行う。
- 行政財産（土地・建築物(屋根)）の目的内利用のルール化

企業理念

私たちは、企業理念として、3つの **S** を実現します。

Sustainability

サステイナビリティ

【持続可能】



Simple

シンプル

【質素・簡潔】



Stock

ストック

【蓄積】



行動指針

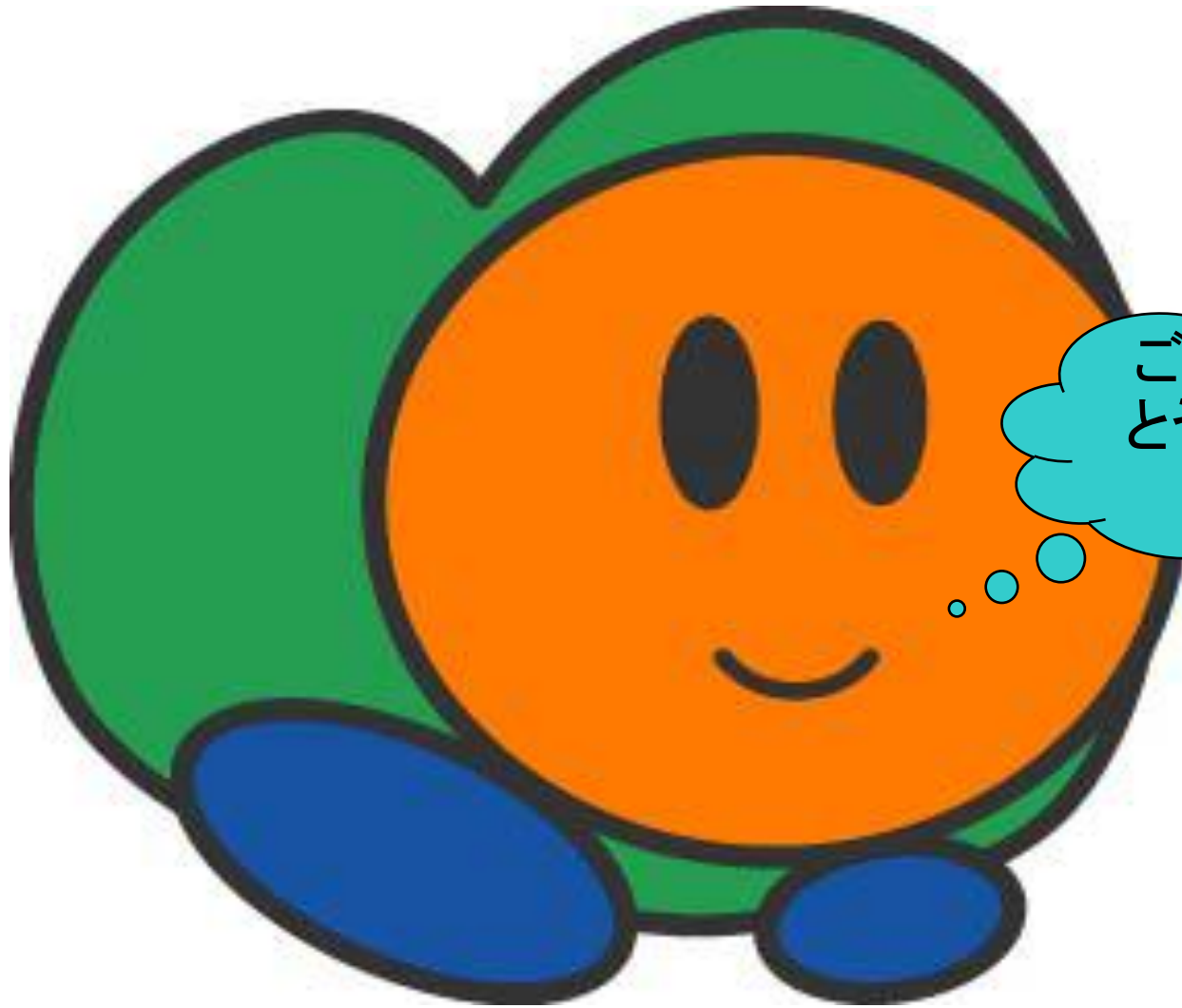
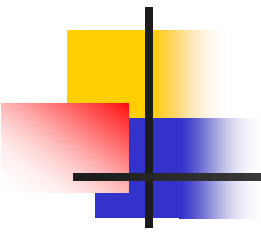
私たちが目指す、**4つの未来**。

エネルギーの
地産地消

コミュニティを
自分たちの
手でつくる

お金の流れを
変えて
社会を変える

望む未来を
選ぶとる



ご静聴ありがとうございました